

## 舞鶴市会議員選挙の結果について

2018年11月19日 日本共産党舞鶴地区委員会

11月18日投開票された舞鶴市会議員選挙において、日本共産党は伊田悦子1218票・20位、小杉悦子1065票・25位、石束悦子1378票・13位、後野和史前市議の後継として出馬した小西洋一1438票・8位という結果となり、4議席を実現しました。ご支持ご支援をいただいた皆様に心からお礼申し上げます。

市会議員選挙は、投票率56,75%(前回58,48%)と史上最低となりましたが、日本共産党は、その中で得票を103票のばし5099票、得票率でも+0,83%の13,37%と前進しました。議会定数が2議席削減のなかで議席占有率の前進もふくめ重要な勝利をかちとりました。自民党は、公認候補6人で前回比2159票の減、得票率も4,41%減と後退しました。

選挙戦は、定数26議席にたいして、44年ぶりに定数から8人オーバー、さらに新人が14人出馬する激戦となりました。そのなかで自民党と共産党の対決が展開されました。安倍強権政治をオーバーラップさせる多々見ワンマン市長に応援された与党候補者にたいして「市長提案に何でも賛成の議員か、ハッキリものを言いしっかり働く日本共産党4人か」の対決構図が鮮やかになりました。ほとんどの候補者が政治や市政・具体的な公約を語らない中で、「医師不足による舞鶴の医療崩壊」「市民負担の押し付け」など現市政を正面から批判し、16年間の議員生活の中で44回「子どもの医療費無料化」を訴え続け、一步一步制度の拡充を実現してきた実績などを一人ひとりの日本共産党候補者が訴えぬきました。また、「温かい中学校給食の実現」や「高齢者や通学者に優しい交通手段の拡充」など市民のみなさんの願いに寄りそった公約にも大きな共感が寄せられました。日本共産党市会議員団は、選挙戦で訴えたこうした公約の実現に全力をつくします。

今回の市会議員選挙での前進とともに、4月にたたかわれた京都府知事選挙において“つなぐ京都”から出馬した福山和人さんが舞鶴市で獲得した1万票も力にして、来年2月にたたかわれる舞鶴市長選挙、4月の京都府会議員選挙、そして7月の参議院選挙での躍進・勝利めざして全力で奮闘します。今後とも、皆様のご支援をよろしく願いいたします。